

大分類	質問分類	Q/A
トラブル	表示器	Q 表示ユニットに「A8-1」と表示されるが原因は何か？
		A 表示器と計測ユニット間の通信ができない場合に発生するエラーです。表示ユニットをパワーコンディショナの近くなどに移動してみて改善されるかどうかお試しください。改善されない場合は、近隣で使用されている無線（他の家の表示ユニットなど）と干渉している可能性がありますので、販売店に相談して無線チャンネルを変更してみてください。
	表示器	Q 計測ユニットの電源ランプが点滅している。 施工・保守マニュアルのP11、P33のトラブルシューティングを見ると「異常状態」と記載があり、確認内容にあるとおり「電圧検知ケーブルが正しく配線されているか」確認したが改善されない。
		A 通常、計測ユニットの電源ランプは点灯しますが、初回起動時などは点滅する場合がありますのでしばらく様子を見て下さい。初期設定が完了すれば点灯になるはずですが、施工保守マニュアルP21にも関連した記述がありますのでご参照ください。
	パワーコンディショナ	Q パワーコンディショナ本体の発電電力量表示が点滅（電圧上昇抑制中を示す）するのだが、カラー表示ユニットの電圧上昇抑制履歴は0分になっている。
		A 電圧上昇抑制が短時間（1分以内）で回復している場合は履歴に残りません。また、位相抑制中（5.5KWのみの制御）はパワーコンディショナの発電電力量表示が点滅はしますが、表示ユニットに電圧上昇は表示されません。長時間にわたり抑制がかかるようでしたら販売店経由で電力会社と相談してください。
昇圧	Q 竣工検査成績書VOL3にある昇圧の試験結果が基準を満たさないのだがどうしたらよいか？	
	A 規定値を満たさない場合見直しが必要です。次の事項を参考にしてください。 ・昇圧するモジュール郡、比較対象のモジュール郡が日光が当たっている時間帯に測定してください。 ・測定条件や測定箇所間違いがないかどうか確認してください。 ・昇圧設定スイッチの設定が正しいか確認してください。 ・昇圧動作中に設定変更した場合は動作しませんので、電気工事説明書（昇圧）P14の注意事項を確認してください。 ・電気工事説明書（昇圧）P13にあるように実測値に基づいて昇圧設定値を微調整してください。	
設置・施工	パワーコンディショナ	Q パワーコンディショナの周囲に障害物（分電盤や本棚など）がある場所に設置してよいか？
		A パワーコンディショナ本体と障害物までの距離が不足していると放熱できない可能性があり、発電量が低下し、故障の原因となりますので、以下について、製品毎の工事説明書に記載されている数値を厳守ください。 ・本体上部から天井又は障害物までの距離 ・本体下部から床面または障害物までの距離 ・本体向かって左側端から壁又は障害物までの距離 ・本体向かって右側端から壁又は障害物までの距離
	接続箱	Q 接続箱の入り口の開閉器の一次側と二次側には太陽電池からの電圧がでているのに、接続箱の出力端子に電圧がでない。
		A 太陽電池からのDCケーブルの極性が間違っで接続されている可能性がありますので、確認してください。また、切り分けのためにパワーコンディショナとの接続ケーブルをはずしてみてください。
		Q 接続、ケーブルにおいて ①接続箱には電圧が来ているが、パワーコンディショナの端子には電圧が来ていない。考えられる原因は何か？ ②パワーコンディショナから接続箱へ来ている電圧を測った際、接続箱のブレーカが上がった状態の時は特に問題ないのだが、ブレーカを下げると電圧が下がってしまう。
	設置	A 太陽電池モジュールからの接続において、ケーブルの極性が逆になっている可能性が高いので、再度マニュアルを確認しながら、ケーブルのチェックをしてみてください。
		Q TVアンテナは問題ないか？
		A ・アンテナ等により太陽電池モジュールに影がかかる場合は、移設していただくことになります。 ・万一、台風等でアンテナポール等が折れた場合に太陽電池モジュールにあたらぬ位置へ、アンテナを設置する必要があります。
		Q 板金の場合、野地板までドリルを貫通させるのか？
		A 貫通させません。
		Q 固定台打ち付けの際、ネジへのコーキングは不要か？
		A 屋根材に穴をあける訳ではないので不要です。
		Q アース線は5.5mm2ではなく、2.2mm2などの細いものはダメか？
		A アース線は5.5mm2です。アース線は単につければ良いというものではなく、いざという時に確実に電流が流れるものでなければなりません。アース線が細いと避雷機能が十分働かなくなるため安全を期して5.5mm2を指定しております。
		Q DCケーブルの保護管はPFD管と規定されているが、アース線の保護管もPFD管を使用しなければならないのか？
		A アース線の保護管もPFD管を使ってください。
		Q PFD管の代わりにVE管かもしくは鉄管で工事できないか？
A 施工マニュアルに記載されている通りPFD管を推奨しています。VE管は自己消化性（防火性）が低い事と金属管は内部に結露が生じるなど電線に影響を受けやすい為、お勧めいたしません。耐候性や信頼性の観点からPFD管を使用して頂く様に案内してください。またPFD管を曲げて使用する場合は、水がたまる可能性の有る部分の最下部に水（ドレン）抜き穴を空けて下さい。また穴を開ける際には、ケーブルを破損しないよう、十分注意して作業してください。		
設置場所	Q 積雪量の判断は、直近多く雪が降った場合、年間積雪量になるのか、それとも平均積雪量になるのか？	
	A 直近の年間積雪量や平均積雪量ではなく、建築基準法も求めている「特定行政庁から公示されている数値」に基づく数値で判断頂いております。数値詳細については特定行政庁にお問い合わせください。ただし、実際の積雪量は道一本隔ただけで異なりますので、特定行政庁データを基に、施主様と販売店様にて最終判断を頂く必要があります。	
	Q 屋内用パワーコンディショナをシャッター付き車庫に設置は可能か？ インナーガレージで室内になり雨風は当たらない。 建築確認申請上もガレージは車庫ではなく室内（部屋）扱いとなっている。	
	A 屋内パワーコンディショナの設置条件を満たし、かつインナーガレージであれば、以下の設置禁止の項目が該当していないか確認できれば設置出来る可能性があります。  ・定められた周囲温度（-10～40℃）、湿度（25～85%）以外の場所 ・氷結・結露が想定される場所 ・箱や押入、納戸、倉庫などで通気性が悪く、製品の発熱により周囲温度が40℃を超えると想定される場所 ・クモやアリなど通風口から虫の侵入が想定される場所 ・作業場など塵埃（オガ屑、ワラ屑、粉塵、砂塵、綿ホコリ、金属粉等）が一般家庭の屋内と比較して多い場所など  但し、設置については、実際の設置環境など販売店と一度ご相談いただきたくお願いいたします。	

システム、効率	パワーコンディショナ	Q	パワーコンディショナの取り付け場所は何処が適切か？
		A	屋内、屋外共に長期の信頼性を確保するため、直射日光が当たらず、湿気・ホコリなどが少ない場所に設置します。詳細につきましては、地域の販売店へご相談願います。
		Q	パワーコンディショナの設置場所で洗面所、脱衣所は全面設置禁止か？
		A	設置禁止条件である周囲温度(-10~40℃)、湿度(25~85%)以外の場所や、氷結・結露が想定される場所、出入口などで温度変化が激しく、内部回路の結露が想定される場所の一例として注意喚起しております。洗面所、脱衣所であっても上記条件ほかを満たせば設置可能です。上記条件ほかに基づく設置可否判断は販売店、施工店様の判断を尊重いたしますが、万が一故障した原因が明らかに上記条件や工事説明書に従わなかった工事に該当する場合は保証の対象外となる場合もありますので予めご了承ください。
		Q	パワーコンディショナを2台横に並べて設置する場合、間隔はどのくらいあれば大丈夫か？
		A	設置禁止条件は使用する機器によって異なります、ドキュメントライブラリの工事説明書を参照ください。
		Q	パワーコンディショナを2台縦に縦列して設置する場合、間隔はどのくらいあれば大丈夫か？
		A	パワーコンディショナを縦に並べる設置は屋外PCSのみ条件付きで可能ですが、設置禁止条件は使用する機器によって異なります。ドキュメントライブラリの工事説明書を参照ください。
		Q	パワーコンディショナを設置するにあたり、断熱材を取り付けている家へはどのように設置すれば良いか？
		A	断熱材そのものには取り付けできません。壁の強度が不足している場合は補強版を検討ください。また壁面設置ができない場合は防錆製の高い鋼板の取り付けをお願いいたします。
		Q	パワーコンディショナ本体の停電用コンセントとパワーコンディショナの自立運転端子に接続したコンセントは併用可能か？
		A	併用可能です。ただし、両方合わせて1.5kW以下にしてください。1.5kWを超える使用は出来ません、1.5kWを超える電気製品を使用された場合は、パワーコンディショナ内のリミッターが働き、AC出力が停止いたします。その後一定時間経過後にAC出力が自動的に復帰いたしますので、出力停止中に、負荷の大きな電気製品をコンセントから抜いて頂く様にお願いいたします。また太陽光の状態においては、出力が1.5kW以下となる場合も有りますので、天候状態を見極めてのご使用をお願いいたします。
		Q	自立運転では定常負荷としては最大1.5kWまで使用可能と聞いてるが、冷蔵庫やエアコンなどモーターが起動するとき、定格より大きな電流(突入電流)が流れるが、どこまで許容されるか？
		A	自立運転時の保護機能で、0.5秒以内であれば最大33Aまで許容されます。これを越えると「交流過電流」とみなしてパワーコンディショナを保護するために「E-32」というエラーコードを表示しパワーコンディショナは停止します。このエラーコードは10秒間(異常保持時間)のみ表示継続します。
		災害対策	Q
A	自立運転は可能となっておりますが、パワーコンディショナからの出力は最大1.5kWに制限されます。自立モードにすると、家中の電気が使えるわけではなく、専用コンセントからの電力供給となります。携帯電話の充電などに便利です。なお、屋外PCSは予め停電用コンセントの設置工事が必要です。		
取扱説明書	Q	設置後、取扱説明書はどこにあるのか？	
A	現在取扱い説明書は同梱されておりませんので、お客様自身が、弊社住宅用太陽光発電ホームページよりダウンロードいただく事になります。		
昇圧ユニット	Q	昇圧ユニットは何台まで使用できるのか？	
A	パワーコンディショナ1台あたり、昇圧ユニットは最大で2台まで使用可能です。		
設置	Q	影がある場合の太陽電池モジュール設置はどうすればよいか？	
A	常時影がかかる場合は設置禁止です。ただし一部かかる時は同一方角の屋根面内で1ストリングにまとめてください。		
分電盤	Q	燃料電池をつけている場合、太陽光発電用の電流センサをの設置位置はどうすれば良いか？	
A	太陽光の電流センサは主幹の1次側(他電流センサより系統側)、燃料電池の電流センサについてはガス会社へご確認いただくようお願いいたします。		